

「今どきの子どもに足りない力」

10年以上出席し続けている会があります。この園だよりでも時々取り上げていますが、千葉市教育課題懇談会という会です。学校教育の直接の関係者だけでなく、保護者や地域の活動をしている幅広い分野の人々が集まって、千葉市の教育を考える会です。筆者は幼児教育の分野から、千葉市幼稚園協会代表として出ています。

毎年違ったテーマを掲げて話し合うこの懇談会の今年のテーマは、「こんな力をもった子どもに育てたい」です。その第1回が先日開かれました。懇談は「今の子どもたちになにを感じるか」で自由な意見を出し合うことから始まりました。委員の口からは「現代子ども批判」が噴出しました。以下に委員方から出された様々な発言をご紹介します。(発言順です。)

がんばることをしながら、すぐに「メンドイ(面倒くさい)」という。

現実とかかわる力が弱い。(バーチャルな世界に入り込む。)

基本を守る意識が乏しく、雑。(折り紙を折らせても端をきちんと合わせようとしない。)

周囲のことに對して関心や好奇心をもたない。

自分で考えようとしない。

集団の一人として行動する意識が乏しい。

作業力が乏しい。

応用する力、表現する力が乏しい。

耐性(発言者は「耐力」という造語で言いました。)がない。

周囲まかせて、自分の生活を自分で組み立てる力がない。

周りの人々と関わる力がない。(かかわりを持つとしない。)

歯止めが利かず、自己を規制する力が弱い。

やりにくそうなことには最初から手を出そうとしない。

よくもまあこれだけ並んだものだと、書き出して改めて感じます。お読みになってどのような感想をお感じになりますか？

懇談会の間にはさまれた休憩時間に、ある校長先生が言いました。「これが子どもたちの姿であるとしても、その原因は100%大人が作っている。むしろ問題はそこにあるのだと思う。」そのとおりなのだと思います。続けてこの先生はこう言われました。「日本の社会全体が腐ってきている。それが子どもたちの姿になって現れているのだ。」そんな気もしてきます。

私のメモにはこんな走り書きが残っています。これが私のその場の感想です。

「子どもに足りない力=そんなことを必要としない子どもの生活=人がそんな生き方をしていない社会」ということか。

「子どもにこんな力が足りない 子どもに力がない

子どもにこんな力が足りない=子どもがそんな力を発揮する場を得ていない」のかも。

「目指す子どもの姿=目指す生活の姿=目指す社会のあり方なのだろう。

この続きは7月3日(火)のキリスト教教育講演会でやってみたいと思い始めています。この場にご出席の皆さんのお声を聞いてみたいと思ったりしています。